令和８年度大磯町補助金等評価委員会　議事録

○日時　令和８年５月 30 日（土）８:40～13:50
○場所　大磯町保健センター　２階研修室
○出席者　委員５名出席
○事務局　町民課長、町民課担当職員
○傍聴者　７名
○会議記録
１．議題
（１）令和７年度町民活動推進補助金事業結果報告について【公開】
○令和７年度報告事業ナンバー①
◆報告団体：みずべぐらしプロジェクト
◆事業名称：みずべぐらしプロジェクト事業
◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり
◆補助金の交付額：　250,000 円
◆質疑応答
【委　員】：１年間の活動お疲れ様でした。まず一点、「ご近所サウナ」というのはテントサウナとおっしゃっていましたが、場所的には川で行っているのですか。それとも拠点で行っているのですか。
【団　体】：川の河口付近で行っています。
【委　員】：海を見ながらのサウナということでしょうか。
【団　体】：はい、水辺から海を見つつ行います。ただ、海に入るのは危険なため、水風呂代わりに入るのは川の方になります。
【委　員】：なるほど、川に入るのですね。ありがとうございます。あと、縁日イベントの「tamari」というのは、場所はどちらですか。
【団　体】：「tamari」は、先ほどの写真に出てきた活動拠点の空き家と、河口の２拠点を同時に使って開催するイベントです。拠点の家では流しそうめんなどを行い、河口では他のイベントと同様に水辺のアクティビティを楽しむといった形で、２拠点を連動させて実施しました。
【委　員】：完全に自主開催ということですね。ありがとうございます。
【委　員】：年間の活動回数が 54 回ということで、週に１回以上のペースで非常に精力的に活動されていると感じました。運営メンバーが申請書では６名となっていますが、この６名で全てのイベントを回しているのでしょうか。また、メンバーは増えているのか、参加者が運営側に回るような仕組みはあるのでしょうか。
【団　体】：基本的には、コアメンバーとして関わっている同世代のメンバーが５～６名です。ただ、SUP 体験会などは安全性の確保のために人数が必要ですので、外部の SUP インストラクタ

ーやボランティアの方にお願いして入ってもらっています。メンバーの増加については、今年度から１名、もともと参加者として遊びに来てくれていた方が活動に共感してコアメンバーに加わってくれました。こうした良い流れを今後も作っていきたいと考えています。

【委　員】：ありがとうございます。活動の持続性や安全性の面からも、組織を広げていけると良いですね。

【委　員】：私からもお願いします。「週末みずべぐらし」の 36 回という回数ですが、延べ人数としてはどのくらいでしょうか。常時何人くらいの方がいらっしゃっているのか教えてください。また、拠点の開放についてですが、これはイベント時のみの開放ですか。それとも一般の方がふらっと立ち寄れるような形なのでしょうか。あと、トイレの整備状況についても伺えますか。

【団　体】：「週末みずべぐらし」などの定期イベントについては、昨年度は延べ 115 名ほどに参加いただきました。拠点の開放については、現在はイベント時の集合場所や、イベント前後の交流の場としての利用が主です。トイレや浴室については、拠点の空き家を改修して使いやすく整備していますが、基本的にはイベント参加者向けとしての機能を意識しています。

【委　員】：この拠点はどなたかお住まいなのですか。

【団　体】：現在は私が居住しておりまして、プライベートな空間と、活動拠点として開放するエリアを明確に分けて運用しています。

【委　員】：なるほど、住居兼用なのですね。もう一点、不動川での活動における水質や衛生面で気になることはありますか。

【団　体】：活動時には必ずゴミ拾いを行っていますが、やはり大雨の後などは上流からゴミが流れてきたり、水質が悪化したりすることがあります。そうした際は無理に水に入らず、焚き火などの陸上での活動に切り替えるなど、状況を見て判断しています。

【委　員】：分かりました。ありがとうございます。

【委　員】：若い方が中心となって活動されているのは素晴らしいですね。参加者に移住者や移住検討者が多いとのことですが、活動を通じて実際に移住が決まった方や、そうした相談を受けることはありますか。

【団　体】：はい、実際にこのプロジェクトを通じて大磯を知り、町外から移住してこられた方が数名いらっしゃいます。活動拠点を探している方からの相談を受けたり、町の情報をお伝えしたりすることもあり、移住者同士のコミュニティとしての役割も果たしつつあります。

【委　員】：ありがとうございました。お時間となりましたので、以上

で「みずべぐらしプロジェクト」の質疑を終了いたします。

○令和７年度報告事業ナンバー②
◆申請団体：Lopo(Life of Photography Oiso)
◆事業名称：地域と人、人と人をつなぐ、大磯写真プロジェクト
◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり
◆補助金の交付額：200,000 円
◆質疑応答
【委　員】：ご報告ありがとうございました。大磯小学校での授業は非常に良い活動だと思いますので、ぜひ継続していただきたいです。最後にあった拠点の「写真室　大磯」は、どのあたりにあるのでしょうか。
【団　体】：大磯駅から徒歩５分ほど、平塚方面へ線路沿いを進んだ場所にあります。元々３階建ての小さなマンションだった建物ですが、12 年後に取り壊される予定の物件を「自由に使っていい」という契約で、比較的安価に借りることができました。
【委　員】：建物の契約者はどなたですか。また、写真集のデザインが完了したとのことですが、現在はデータとしての状態なのでしょうか。
【団　体】：契約は代表である私が行っています。賃貸の 12 年契約です。本に関しては、昨年度はエディトリアルデザインまでを完了させ、デザインデータを作成しました。今年度はこれを製本し、図書館への寄贈や販売、町内の飲食店などへの設置を進めたいと考えています。
【委　員】：本として残し、図書館に置くというのは素晴らしいですね。それ以外の発信方法や今後の展望はいかがでしょうか。
【団　体】：できれば 100 人分くらいのストーリーを記録したいと考えています。ただ、１時間のインタビューを凝縮して一つの作品にするのは非常に手間がかかり、現在は１件作成するのに１ヶ月ほどかかっています。今後は「ZINE（ジン）」のような形で、小冊子として手軽に手に取れる形での販売も検討しています。また、この「LIFE STORIES」というモデルは大磯だけでなく、例えば「茅ヶ崎ライフストーリーズ」のように他地域へ広がる可能性もあると考えています。
【委　員】：中高生向けのキャリア教育としての活用も考えられそうですね。
【団　体】：おっしゃる通りです。先生方からも良い反応をいただいていますので、子供たちが地域の大人たちの多様な生き方に触れる機会として、教育連携も深めていきたいです。
【委　員】：若い方々が中心となって、大磯の魅力を外へ向けても発信

されているのは心強いです。今後、どの程度の規模まで活動を広げたいという目標はありますか。

【団　体】：まずは大磯でしっかりと根を張ることが第一ですが、大磯には世界レベルで活躍するフォトグラファーも住んでいます。彼らの表現力と大磯の魅力を掛け合わせ、将来的には世界へ向けて発信できるような質の高い文化芸術活動に育てていきたいと考えています。

【委　員】：運営体制について伺います。現在はお一人で回されているのでしょうか。

【団　体】：外部のデザイナーやライター、そしてフォトグラファーの仲間が数名「準メンバー」や「協力メンバー」として関わっています。拠点である「写真室　大磯」が本格稼働すれば、より自然な形でメンバーが増えていくと考えています。例えば、プロの技術を学びたい若者や、地域で何かを表現したい人たちが集まる場にしていきたいです。

【委　員】：持続性の面からも、運営メンバーの固定化を避けつつ、協力者を増やしていけると良いですね。お時間となりましたので、以上で「Lopo」の質疑を終了いたします。

○令和７年度報告事業ナンバー③

◆申請団体：ほとり

◆事業名称：地域にひらいた、日中のこどもの居場所づくり事業

◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり

◆補助金の交付額：110,000 円

◆質疑応答

【委　員】：ご報告ありがとうございました。スタッフが現在５名とのことですが、これは以前より増えたのでしょうか。また、先ほど「町民活動推進補助金からは卒業」というお話がありましたが、今後の活動の広がりについてどのようにお考えですか。

【団　体】：スタッフの人数についてですが、私を含めたコアメンバーは５名で、定期的に入ってくれるボランティアの方を含めるともう少し多くなります。運営を安定させるために、もう少しボランティアとして参加してくれる方を増やしていきたいと考えています。今後の展開については、私が「ほとり」以外で関わっている「一般社団法人アマヤドリ」という団体があります。こちらは若者や親子への伴走支援を行っており、神奈川県の委託事業も受けています。11 月以降は、この「アマヤドリ」の活動と連携することで、より専門的な支援や県西部での拠点としての機能を強化してい

きたいと考えています。

【委　員】：おめでとうございます。町の補助金をステップにして、より大きな枠組みで活動を継続されるのは素晴らしいことだと思います。「ちいさなほとり」で、お子さんがスタッフとしてお手伝いされているとのことですが、どのようなことをされているのですか。

【団　体】：「ちいさなほとり」では、子どもたちが「やりたい」と思ったことをやってもらう形式をとっています。強制は一切ありませんが、来た時に黒板にメニューを書いたり、盛り付けを手伝ったり、オーダーを取ってお水を運んだりしてくれます。絵を描くのが好きな子が多いので、メニュー表を可愛く描いてくれることもあります。そうやって少しずつ社会と関わり、自分の役割を見つけていく姿が見られます。

【委　員】：小中学生が参加するにあたって、保護者の同意や学校との連携などはどのようにされていますか。特に不登校傾向にある子の場合、家庭や学校との関係性が重要になるかと思います。

【団　体】：おっしゃる通りです。現在通っている子の多くは、すでに学校には行かないという選択をしている子や、家庭でも理解がある場合がほとんどです。ただ、本当に支援を必要としているのは「家からも出られない」という状況にある子たちです。そうした子や保護者に対して、学校の先生から「こういう場所があるよ」と紹介してもらえるよう、学校との情報共有は継続的に行っています。大磯町内の小中学校の先生方とは、定期的にミーティングの機会を設けていただいており、少しずつ「ほとり」の存在が浸透してきていると感じています。

【委　員】：継続的な活動、本当に大切だと思います。すでに取り組まれているかもしれませんが、サポート会員を募る際、もしウェブサイトをお持ちであれば、協力してくださる企業や団体のバナーを掲載する「賛助会員」のような枠組みを作っても良いかもしれません。資金面での安定だけでなく、地域の企業との繋がりも深まるかと思います。

【団　体】：ありがとうございます。これまでは企業様へのアプローチはあまりできていなかったので、ぜひ検討させていただきます。

【委　員】：お時間となりましたので、以上で「ほとり」の質疑を終了いたします。

○令和７年度報告事業ナンバー④

◆申請団体：トコトコ
◆事業名称：障害の有無にかかわらず安心して暮らせる居場所づくり事業
◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり
◆補助金の交付額：47,665 円
◆質疑応答
【委　員】：１年間の活動お疲れ様でした。活動内容と課題が明確に洗い出されており、非常に充実した活動だと感じました。着替えの課題についてですが、解決の糸口はありそうでしょうか。更衣室の年齢制限などもあり、異性の保護者が付き添う場合は難しい面があるかと思います。
【団　体】：はい、現在は「てるがさきプール」の多目的スペース、例えば車椅子の方用のお手洗いとおむつ替えシートがあるような少し広いスペースを利用させていただけないか、施設側と相談を始めています。ただ、スペースに限りがあるため、交代で利用したり、着替えを早めに済ませたりする工夫も必要だと考えています。また、避難所などで使われるような「ワンタッチテント」を購入して、簡易的な更衣スペースとして活用する案も出ていますが、まだ検討段階です。
【委　員】：周知方法について伺います。より多くの方に知っていただきたい活動ですが、現在はどのように広報されていますか。また、参加人数が増えた場合のスタッフ不足や安全性についてもどのようにお考えでしょうか。
【団　体】：周知については、主に Instagram などの SNS や、周知用のチラシを町内の公共施設などに置かせていただいています。現在はまだ利用希望の方がそれほど多くないので対応できていますが、今後人数が増えた場合は予約制にしたり、回数を増やしたりすることを検討しています。安全性については、必ず保護者同伴での参加をお願いしており、お子さん一人での参加は受け付けておりません。
【委　員】：保護者同士の情報交換会も隔月で開催されているとのことですが、何家族くらいが参加されていますか。
【団　体】：現在は５～６家族程度です。皆さん現役で子育て中ということもあり、お子さんの体調やご自身の仕事の都合などで、全員が揃うのはなかなか難しいのが実情です。
【委　員】：なるほど。お父さんの参加を促すような働きかけはされていますか。
【団　体】：以前、一度だけ「パパ座談会」という形で、お父さんだけでの情報交換会を企画したのですが、その時は残念ながら申し込みがありませんでした。やはりお父さんは一歩引いてしまう面もあるのかもしれません。今後はプールイベン

トのような、お父さんも一緒に参加しやすいアクティビティを入り口にして、少しずつ繋がっていければと考えています。

【委　員】：大磯小学校の「地域の方を呼んで話を聞く」という授業にも、別の小学校ですが白砂さんが登壇されたと伺いました。

【団　体】：はい、大磯町内の小学校からご依頼をいただき、私自身の体験や、障害のあるお子さんとそのご家族を取り巻く環境についてお話しさせていただきました。先生方からも「こうした交流の機会は大切だ」と言っていただき、子どもたちにとっても何かを感じてもらえる機会になったのであれば嬉しいです。

【委　員】：非常に重要で意義のある活動だと思います。孤独になりがちな保護者の支えにもなるよう、ぜひ今後も積極的に進めていただければと思います。お時間となりましたので、以上で「トコトコ」の質疑を終了いたします。

（２）令和８年度町民活動推進補助金事業採択に係る審査について【公開】

○令和８年度審査事業ナンバー①

◆申請団体：トコトコ

◆事業名称：障害の有無にかかわらず安心して暮らせる居場所づくり事業

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付希望額：22,950 円

◆質疑応答

【委　員】：活動お疲れ様です。昨年度の報告も踏まえ、課題解決に向けて前向きに取り組まれている姿勢が素晴らしいと感じました。今年度の計画にある「勉強会の検討」や「情報紙の発行」など、新しい試みについても具体的に考えていることはありますか。

【団　体】：はい。勉強会については、専門家をお呼びすることも検討していますが、まずはオンラインでのセミナー等に参加して情報を集めることから始めようと思っています。メンバーの中に専門的な知識を持つ方もいるので、そうしたネットワークを活用して、福祉や将来の生活設計についての学びを深めていきたいと考えています。

【委　員】：「ヘルプマークグッズ」について伺います。これはＴシャツやキャップなどにマークを付けるといったイメージでしょうか。また、マークの使用に関する制約などは確認されていますか。

【団　体】：はい、イラストのように身に付けられるもの、あるいはバ

ッグに付けるタグのようなものを想定しています。ヘルプマークの使用についてはガイドラインがあり、申請や許可が必要な場合があることも認識しています。福祉課とも相談しながら、適切な手続きを経て進めていく予定です。将来的には町の福祉まつり等での販売もできればと考えています。

【委　員】：現在の活動は、主にご家族や当事者の方々が中心かと思いますが、今後は当事者以外の方、例えば学生ボランティアなどを巻き込んでいく可能性はいかがでしょうか。

【団　体】：将来的にはぜひ広げていきたいです。子どもたちと関わる上で理解のある方であれば、例えば東海大学の学生さんなど、若い世代の方々にも協力していただけると、活動に活気が出て、子どもたちにとっても良い刺激になると考えています。

【委　員】：小学校や中学校との連携についてはいかがですか。学校側に周知してもらうことで、まだ繋がっていないご家庭にも情報が届くかもしれません。

【団　体】：はい。現在も小学校で私自身の体験をお話しする機会などをいただいていますが、学校の先生方を通じて保護者の方へ「こういう居場所があるよ」という情報が伝わるような連携を、より一層深めていきたいと考えています。

【委　員】：予算について一点確認です。昨年度の報告で課題となっていた「更衣用テント」の購入費ですが、今年度の収支予算見込書には含まれていないようですが、よろしいでしょうか。

【団　体】：申し訳ありません。予算作成の段階ではまだ確定していなかったのですが、メンバー内での話し合いの中で重要性が高まりました。予備費や自己資金の配分を調整して、今年度中に導入できるよう進めてまいります。

【委　員】：切実なニーズに基づいた活動ですので、期待しています。ありがとうございました。

○令和８年度審査事業ナンバー②

◆申請団体：ヤッホーシネマ

◆事業名称：ヤッホーシネマ

◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり

◆補助金の交付額：100,000 円

◆質疑応答

【委　員】：ありがとうございました。細かいことですが、この上映会は場所はどこでやっているのか。また、周知の内容については、どのような内容で周知されたのか教えてください。

あともう一点、環境問題などの課題設定についてですが、人権問題など様々ある中で、今後も環境問題が中心になるのか、そのあたりの広い分野の扱いについても教えていただけますか。

【団　体】：場所については、大磯町にある子どもの居場所「ヤッホー」の場所をお借りして上映会を行っています。周知については、現在 Instagram でヤッホーシネマのアカウントを持っています。また、場所を借りる「ヤッホー」の利用者である親子や地域の方が既にフォロワーとして繋がっている「ヤッホー」の Instagram でもシェアをたくさんしていただいています。初回に関しては、主にソーシャルメディア（SNS）に特化して周知を行いました。
作品については、お手元に配らせていただいた資料にもありますが、幅広いラインナップを想定しています。最初は環境問題の中でも非常に理解しやすく、親子で見やすい作品から始めていますが、参加してくださっている方々にもこの一覧を見ていただき、皆で興味があるもの、見たい作品を選んでいこうと考えています。ですので、テーマを固定するイメージはなく、幅広く皆が興味あるもの、学びたいものに関して選択していく予定です。

【委　員】：ありがとうございます。今年度が初年度ということですが、収支予算見込書の支出の部にある「映画コンテンツ使用料 143,000 円」について伺います。これは「cinemo（シネモ）」というプラットフォームのライセンス料かと思いますが、来年度も同じような金額になるのでしょうか。それとも、別のライセンス料が発生する仕組みがあるのでしょうか。

【団　体】：基本的には「cinemo」というプラットフォームを継続的に利用していくことを考えています。理由としては、「cinemo」側で定期的に上映できる映画の選択肢がある程度の期間で更新されていきます。同じプラットフォーム内でも、提供できる映画の選択肢は広がり続けますので、当面はこちらの「cinemo」を利用し続けることを考えております。

【委　員】：ありがとうございます。あと、団体名の「ヤッホーシネマ」についてですが、子どもの居場所である「ヤッホー」という団体とはどのような関係性になるのでしょうか。

【団　体】：ヤッホーシネマは、子どもの居場所「ヤッホー」とは別団体です。なぜ「ヤッホー」という名称を使っているのかという点については、現在「ヤッホー」が町の中で親子を中心にコミュニティとしてかなり確立されています。コミュニティシネマを広げていくにあたって、既に大磯町で信頼を得ていて認知も取れている団体さんと一緒に、場所を借

りたり、あるいはある程度のコラボレーションができる土台があることは、かなりメリットになると考えました。「ヤッホー」に来ていただいている方にイベントのタイミングで周知やお声掛けをすることで、認知の入り口を広げていくという狙いがあり、別団体として活動しております。

【委　員】：トライアルを２回開催されたとのことですが、参加された方はどのような方々だったのでしょうか。というのも、社会課題を扱った映画を見るということ自体、実はハードルが高いのではないかと感じます。もともと関心がある人しか来ないのではないか、という懸念もあります。「知る」ということを掲げておられるので、それほど関心がない層にも届いてほしいと思いますが、そういった方々に来てもらうための働きかけはどうお考えですか。

【団　体】：どのような方に参加していただいたかという点では、おっしゃるとおり、ある程度この上映テーマに関心がある方々が中心でした。全く興味がない方がいらっしゃることはあまり考えにくいのですが、興味があっても「自分で調べる」「本を読む」といったアクションを起こすのはハードルが高いと感じている、中間の層をまずはターゲットにしていきたいと考えています。第１回と第２回の違いで申し上げますと、第１回は「ヤッホーシネマ」単体で実施しましたが、第２回に関しては「ヤッホー」さんのイベントの時とテーマを掛け合わせております。ですので、上映会を目掛けてきた方だけでなく、イベントに来ていた方もフラリと寄ってくださるということがありました。このような仕掛けを継続することで、メインの層以外にも広げていける可能性があると考えています。

年齢層で言うと、第１回の環境問題の時はお母さんと一緒に小学校２、３年生くらいの男の子が来たり、上は 50 代の方まで幅広かったです。作品選定も工夫しており、難しいテーマでも「親子で見られるストーリー仕立て」のものなどを選んでいます。例えば第１回のテーマは環境問題でしたが、親子で、あるいは娘たちの世代に届けるために父親が奮闘しているようなドキュメンタリーを選定するなど、とっつきやすい工夫をしています。

【委　員】：環境問題や脱炭素など、世界レベルのテーマを設定されていますが、参加者の変化などの「事業の効果」をどう測っていかれますか。アンケートや意見交換など手法は色々ありますが、この事業をやったことでどのような効果が出ることを狙っていますか。

【団　体】：指標としては、まずはステップごとの成果だと考えています。「知る」については、上映会への参加人数が平均して

10 名を上回り続けているか。「繋がる」については、第２回の上映会の時も、大磯町でそれぞれの得意領域を活かした「リペアカフェ」ができるのではないかという話が参加者から出ました。このようなアイデアがどれくらい出たか、そして実際に私たちの支援も含めて、そこから新たな取り組みやイベントがどれくらい生まれたか。これが、「繋がる」「動き出す」における実際の成果や指標になってくると考えています。

【委　員】：映画を鑑賞した後の皆での「感想シェア」は、どれくらいの時間を取っているのですか。映画の時間はまちまちだと思いますが、例えば全体で４時間という枠の中での配分はどうなっていますか。

【団　体】：感想シェアの時間は、大体 15 分から 30 分程度です。映画に関しては、第１回は 90 分程度、第２回は 30 分程度でした。全体の４時間という時間は、会場の設営や片付けの時間も含めた枠として設定しています。

【委　員】：きっかけを作るということが大きな目的なのですね。

【団　体】：はい。特に初年度である今年は、きっかけを作ること、そして社会課題を知っていただくということを一番の目的にしております。

【委　員】：「自律的にアクションを促す」という目的において、上映後にどのようなプログラムを紹介するといった具体的な仕掛けはありますか。例えば若者が起業するとか、何かを始めるための後押しとなるような仕組みがあれば教えてください。

【団　体】：これまでの例で言いますと、第２回で上映した「リペアカフェ」は、オランダで「壊れたものを修理して使い続けたい人」と「修理が得意な人」が集まるコミュニティセンターのドキュメンタリーでした。これを見た後に、参加者のご婦人から「自分はこういう修理が得意だ」という話が出ました。それを受けて周りの方が「それなら修理してほしいものがある」と反応し、「じゃあ大磯でもリペアカフェをやってみよう」という話が具体的に進み始めています。このように、少人数だからこそ話しやすい環境で、自分の「得意」と誰かの「困りごと」を掛け合わせ、プロジェクトの種のようなものが生まれる。それを私たちが伴走しながら実現させていくことが役割だと思っています。第３回以降も、映画上映とそこで出たアイデアを組み合わせた実践型のワークショップを一緒に企画していきたいと考えています。

【委　員】：最後に、毎回同じメンバーにならないための工夫として、新しい参加者を招き入れるための方策はありますか。

【団　体】：一つはテーマを毎回変えてバリエーションを持たせることです。もう一つは、テーマに関連する活動をしている方をゲストにお呼びし、対話の中で 10 分程度お話しいただくといった「告知企画」を入れることです。その方の周りにいる方々にも興味を持っていただき、新しく入ってきていただけるような工夫をしていきたいと考えています。
【委　員】：以上で質疑応答を終了いたします。ありがとうございました。

○令和８年度審査事業ナンバー③
◆申請団体：Lopo(Life of Photography Oiso)
◆事業名称：「地域の写真室」プロジェクト - 写真でつなぐ、大磯の記憶と人。
◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり
◆補助金の交付額：240,000 円
◆質疑応答
【委　員】：ご説明ありがとうございました。収支予算見込書の記載内容について確認させてください。収入の部の「会費」として年間 15 万円、４名分で 60 万円と記載されています。先ほどの報告の中で、拠点維持費をシェアするというお話がありましたが、一方で規約の第６条には「会費を徴収せず」とあります。この整合性はどうなっているのでしょうか。
【団　体】：ご指摘ありがとうございます。この Lopo という団体自体の「入会金や年会費」は徴収しないという方針ですが、今回立ち上げる「写真室」を日常的にメインで利用するメンバーに関しては、家賃などのランニングコストを分担する「拠点維持費」として、この金額を設定しています。表現として「会費」と書いてしまいましたが、実態は拠点の共同維持費という位置づけです。
【委　員】：なるほど、拠点維持費ということですね。メンバーは今後増える予定はありますか。
【団　体】：はい。現在も少しずつメンバーは増えています。本格稼働すれば、活動に共感して参加してくれる方はさらに増えていくと考えています。
【委　員】：事業収入の「イベント参加費」について伺います。ワークショップなどの参加費相場はどのくらいを想定されていますか。
【団　体】：基本的には千円から数千円程度、参加しやすい安価な設定を考えています。利益を上げることよりも、まずは地域の方や次世代に写真やクリエイティブに触れてもらうことを重視しています。

【委　員】：支出にある「食糧費４万円」の用途を教えてください。
【団　体】：これは講演会やワークショップを実施した際の、講師や参加者へのちょっとしたお茶菓子やお出しする飲み物などの雑費です。
【委　員】：拠点ができたことで、具体的に新しく可能になることは何でしょうか。
【団　体】：一番は、一貫した制作環境が整うことです。公共施設をその都度借りる手間がなくなり、スタジオセットや暗室、大型プリンターが常設されているため、思い立った時にすぐ高いクオリティで撮影・プリント・額装までを行うことができます。例えば「大磯コネクト」などの地域施設と連携して、大きなバナーやインスタレーションを制作するといった際も、この拠点を中心に迅速な対応が可能になります。
【委　員】：中高生などの若い世代への教育や、障害のある方の表現支援など、多様な視点での活動も期待したいところです。
【団　体】：ありがとうございます。まさに「写真室」を、若い子がプロの技術を学んだり、多様な背景を持つ人々が自らを表現したりする場にしたいと考えています。単に「若い子にやらせてあげる」のではなく、一人の表現者としてクオリティの高いものを一緒に作っていけるような、そんな育成の場を目指します。
【委　員】：建物の場所について、３階建てマンションの１室とのことですが、他の部屋にはどのような方がいらっしゃいますか。
【団　体】：１階にはお花屋さん、２階には木工作家さんのアトリエが入っています。建物全体がクリエイティブなサロンのような雰囲気になっており、非常に良い環境です。この「写真室　大磯」も、その一角として地域に根ざした活動を深めていきたいと考えています。
【委　員】：お時間となりましたので、以上で「Lopo」の質疑を終了いたします。ありがとうございました。

○令和８年度審査事業ナンバー④
◆申請団体：みずべぐらしプロジェクト
◆事業名称：みずべぐらしプロジェクト
◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり
◆補助金の交付額：212,500 円
◆質疑応答
【委　員】：活動報告会に続いての説明、ありがとうございました。活動内容については年間 50 回以上実施されており、非常に充実していると感じます。今後どのように事業を継続していくかという点について伺いたいのですが、収支予算見込書

を拝見すると、事業収入が０円となっています。一方で寄附金が 20 万円計上されていますが、これは実質的にサップ体験会などの参加費という理解でよろしいでしょうか。

【団　体】：はい、そのとおりです。初めての方を対象とした「SUP 体験会」については、寄付制をとっています。実際に体験していただいた上で、その体験に感じた価値としてお金をいただく形です。ある程度の相場観は提示していますが、寄附金として計上しています。一方で、より継続的に参加してもらう「週末みずべぐらし」や「ご近所サウナ」に関しては、固定の参加費を設けるようにして、安定的な運営を目指しています。サウナなどはまだ回数が少ないですが、固定費をいただけるプログラムを並行して実施することで、事業としての自走を目指しています。

【委　員】：現状、事業収入の欄が０円となっていますが、今後はそこに参加費などが入ってくる可能性があるということですね。

【団　体】：はい、そのように考えております。

【委　員】：ありがとうございます。「週末みずべぐらし」の会員数を 30 人に増やすという目標が事業計画にありますが、現在の人数はどのくらいでしょうか。

【団　体】：現状は、定常的に関わってくれているメンバーは 15 人ほどです。今年度はこれを倍増させることを目標にしています。

【委　員】：課題としては、一度体験した方がなかなか定着しにくいという点があるのでしょうか。そこをどう丁寧にフォローしていくかが鍵になりそうですね。あと、不動川河口のキャパシティについても伺いたいのですが、一度に何人くらいまでなら安全に、楽しく活動できるとお考えですか。道具の数などの制約もありますか。

【団　体】：基本的には道具の数で制限されます。現在、自分たちで保有しているボードは８本です。インストラクターの数も考慮すると、初めての方向けの「SUP 体験会」は定員６名程度で行っています。ただ「週末みずべぐらし」のようなコミュニティイベントになると、参加者の中にこの活動をきっかけに自分のボードを買って持参してくれる方も増えてきました。そのような「自前の道具がある層」を含めると、河口でのアクティビティとしては、常時 10 名から 12、3 名程度が一緒に活動している状況を目指してやっていきたいと考えています。

【委　員】：自分たちの趣味として、日常的に通う人が増えているのですね。それは素晴らしいですね

【団　体】：はい、SUP だけでなくサウナや焚き火にも顔を出してくれるような、多角的な関わり方をしてくれる方もいらっしゃいます。

【委　員】：広報活動についても確認させてください。「大磯市」への出展は毎月されているのでしょうか。また、そこでの反応はいかがですか。

【団　体】：大磯市に関しては、SUP ができるシーズンである４月から 10 月の間、予定が合う限り出展しています。実際にブースを出してみての反応ですが、Instagram や町内の掲示板だけではなかなかリーチできない層の方々に知ってもらえる機会になっています。大磯市で直接話をすることで、私たちの人柄や活動の雰囲気が伝わりやすく、そこから体験会への参加に繋がる確率が非常に高いと感じています。対面でのコミュニケーションに、私たちも価値を感じて出展を続けています。

【委　員】：活動の「緩やかさ」と「事業としての成果」のバランスをどう考えていますか。居場所としての機能も重要ですが、補助金を受けている以上、数字としての成果も求められるかと思います。

【団　体】：非常に難しい課題だと認識しています。私たちの本質は、水辺での暮らしを楽しむ「緩やかなコミュニティ」や「サードプレイス」としての場所作りです。あまりガチガチにコミットを求めすぎない良さがある一方で、人を集めて事業を継続させていく責任もあります。今年度は、イベントの提供という側面だけでなく、私たちが楽しんでいるライフスタイルを「お裾分け」するような感覚を大切にしつつ、しっかりと定常的な参加者を増やし、目に見える形でのコミュニティ形成を両立させていきたいと考えています。

【委　員】：お時間となりましたので、以上で質疑応答を終了いたします。ありがとうございました。

○令和８年度審査事業ナンバー⑤

◆申請団体：大磯小学校ウィンドオーケストラ

◆事業名称：大磯小学校ウィンドオーケストラ(吹奏楽団活動)

◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり

◆補助金の交付額：350,000 円

◆質疑応答

【委　員】：発表ありがとうございました。メンバー構成について伺いたいのですが、現在は大磯小学校の児童限定での活動でしょうか。例えば、学年の制限などはありますか。

【団　体】：現在は４年生から６年生の大磯小学校の児童を対象としています。今年度は３年生も２名入団しました。兄弟姉妹が在籍しているなどの事情を含め、保護者が面倒を見られる範囲で受け入れています。あまり低学年すぎると、楽器の

重さや体力の面で難しい部分があるため、高学年をメインとしています。

【委　員】：大磯小学校の児童に限定されているのは、何か理由があるのでしょうか。例えば町内の他の小学校の子が入りたいとなった場合はいかがですか。

【団　体】：もともと学校の部活動から派生した経緯があり、場所も楽器も大磯小学校の施設を借りています。学校側との調整の中で、現在は大磯小学校の児童を対象とすることが条件となっています。将来的には町内全域に広げたいという意志はありますが、管理や責任の所在などの面で、まだ学校側との話し合いが必要な段階です。

【委　員】：先ほど、卒業後も大磯中学校で続けているという話がありましたが、卒業生が大磯小学校ウィンドオーケストラの練習に教えに来たり、一緒に演奏したりする交流はありますか。

【団　体】：はい、夏休みなどに中学生が教えに来てくれることはあります。ただ、先ほど申し上げた通り楽器が圧倒的に足りないため、中学生の分まで楽器を貸し出す余裕がないのが実情です。中学生が自分の楽器を持ってきてくれれば可能ですが、現状はあくまで小学生の指導サポートに留まっています。

【委　員】：楽器の所有権や管理について教えてください。学校の備品と、 団体で購入したものが混在しているのでしょうか。

【団　体】：はい、元々学校にあった備品を借りているものと、保護者会が譲り受けたもの、そして新たに寄贈されたものなどが混在しています。管理は我々の団体で行っておりますが、修繕費は基本的には我々の負担です。新品だと例えばティンパニなどは 100 万円単位になります。ですので、他団体が使わなくなった程度の良い中古品を数万円で探すなど、工夫して揃えていきたいと考えています。今回の補助金をいただければ、そうした中古楽器の購入にも充てたいです。

【委　員】：大人向けの吹奏楽団など、地域の他の団体との連携はいかがでしょうか。

【団　体】：指導者の中には他団体の方もいらっしゃいますし、楽譜の貸し借りなどの面で協力し合っています。将来的には、大人も子供も混ざった大きな演奏会ができれば、町全体の文化の活性化にも繋がると考えています。

【委　員】：学校の部活動から地域の団体へと自立していく過程で、告知の壁など大変な面もあるかと思いますが、町全体のイベント をうまく活用して、周知を広げていってください。

【団　体】：ありがとうございます。地域の活性化に寄与できるよう頑張ります。

【委　員】：以上で、大磯小学校ウィンドオーケストラの質疑を終了いたします。ありがとうございました。

○令和８年度審査事業ナンバー⑥

◆申請団体：ぷちおおいそ実行委員会

◆事業名称：ぷちおおいそ 2026

◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり

◆補助金の交付額：104,000 円

◆質疑応答

【委　員】：発表お疲れ様でした。支出の部にある「謝金」について伺います。指導者の方への謝金とありますが、これはどのような方々でしょうか。

【団　体】：申請書上は 10 万円と記載させていただいていますが、実際には指導者の方々もボランティアベースでご協力いただいているため、実支出としては発生しておりません。あくまで予算枠としての計上です。

【委　員】：なるほど。では、実際に支出される「食糧費 18 万円」について教えてください。

【団　体】：はい。こちらは当日のブース運営で使用する食材や、ボランティアスタッフへの軽食などです。大磯出身の力士の方の指導による「ちゃんこ鍋」を子供たちと一緒に作って販売したり、「井上蒲鉾店」さんの揚げ物、あるいは私が運営している NPO 法人の「こども食堂」のスタッフが協力して作る食事などの材料費です。食材費は補助対象外となるため、こちらは私たちの持ち出しとなります。

【委　員】：備品購入費の「町民証ホルダー」についても教えていただけますか。

【団　体】：町民証を首から下げて活動するためのホルダーです。数年使い回しているものがボロボロになり、数も足りなくなってきたため、来年度に向けて一新したいと考えており、今回の補助金で申請させていただきました。

【委　員】：「子どもゆめ基金」など他の助成金も活用されていますが、町の補助金との使い分けや、今後の自立に向けた展望はどのようにお考えですか。

【団　体】：「子どもゆめ基金」は非常に審査が厳しく、消耗品や一部の経費にしか使えません。一方で、町の補助金はより幅広く柔軟に活用できるため、広報物や機材のレンタル費用など、イベントの質を高めるための部分に充てたいと考えています自立については、本来であれば参加費をいただくのが一番の近道かもしれませんが、先ほど申し上げた通り「体験の機会平等」を大切にしたいため、当面は地域の企

業様からの協賛金や、私たちメンバーの寄付、そして行政のサポートを組み合わせながら、持続可能な形を模索し続けたいと思っています。

【委　員】：昨年度の「こどもリーダー」が成長して、今度はスタッフ（社会人ボランティア）として戻ってくるという循環が生まれていると伺いました。

【団　体】：はい。おかげさまで10年以上続けてきたことで、当時小学生だった子が大学生や社会人になって「運営を手伝いたい」と戻ってきてくれています。これは非常に嬉しいことで、私たちの大きな誇りでもあります。こうした「大磯育ち」の若い力が運営の中心になっていけるよう、体制を整えていきたいです。

【委　員】：地域の活性化と次世代育成を両立した素晴らしい活動ですね。期待しています。お時間となりましたので、質疑を終了いたします。

○令和８年度審査事業ナンバー⑦

◆申請団体：湘南西部スポーツクラブ

◆事業名称：パラスポーツ普及・推進事業

◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり

◆補助金の交付額：30,000円

◆質疑応答

【委　員】：お疲れ様でした。事業目的に「主に車椅子バスケ」とありますが、他にはどのような種目をされていますか。

【団　体】：一般的にはボッチャ、他にはコーンホールやフライングディスクなども一緒にやっています。車椅子バスケを1時間やった後の 30 分間で、様々なパラスポーツを用意して遊んでいます。

【委　員】：車椅子バスケの専用車椅子ですが、初めて来た方には貸し出しをされているのですか。

【団　体】：はい、貸し出しています。私自身もプレーヤーだったので、中古をいくつか所有しています。また、秦野市で活動を始めた際、24時間テレビの寄付で秦野市体育協会に10台の競技用車椅子が寄贈されたのですが、あまり使われていなかったため、現在は私たちが秦野市からお借りして、それを大磯にも運んで使っています。

【委　員】：それらの車椅子は壊れたりしませんか。

【団　体】：競技用車椅子は非常に頑丈にできているので、基本的に壊れません。タイヤが少し減る程度で、体験会レベルであれば大きなメンテナンス費用はかかりません。

【委　員】：説明ありがとうございました。活動拠点が大磯と秦野とい

うことですが、参加者の比率はどのようになっていますか。
【団　体】：大磯でやる時も秦野でやる時も、参加人数はそれほど変わりません。大磯での開催時は大磯の方が多いですが、秦野からも参加者が来ます。パラスポーツは競技人口が少ないので、保護者が車で送迎できる範囲であれば、遠方からでも参加してくださいます。
【委　員】：参加者のうち、実際に車椅子を利用されている方と健常者の方の比率はどうですか。
【団　体】：健常者の方は全体の４分の１くらいですね。
【委　員】：備品購入費で「スポーツ用看板」とありますが、これは具体的にどのようなものですか。
【団　体】：バスケットボールの B リーグなどで、オフィシャルテーブルの両脇に置いてあるような、スポンサー名やイベント名が入った看板です。屋外のイベント時に設置して、何をやっているか一目で分かるようにしたいです。
【委　員】：車椅子だと体育館の床を傷つけるということで、利用を断られるケースもあるかと思いますが、大磯での会場確保や学校とのやり取りはスムーズにいっていますか。
【団　体】：大磯小学校の体育館は２階にあり、エレベーターがないのが悩みです。本来は国府小学校を使いたいのですが、あちらも車椅子のプレーヤーが上がるのが大変な構造です。中学校の体育館はゴールが高すぎて子どもたちのシュートが届かないため、現在は低いゴールを持ち込んで対応しています。
【委　員】：支出の部で、使用料が「1,400 円×６」と「2,400 円×６」とありますが、これは会場ごとの違いですか。
【団　体】：秦野の総合体育館などは２時間で 2,400 円ほどです。秦野の場合は子どもたちに指導する活動であれば、半額免除になる制度を活用しています。
【委　員】：看板などは、今まさに活動していることをアピールするためのものですか。
【団　体】：そうです。スクールとして活動している時は、通りがかりの方に活動を知ってもらうため、イベントの時は立ち寄りやすくするために活用します。ビーチパークなどで手作りの看板を出した時も、それを見て寄ってくれる方が多かったので、しっかりしたのぼり旗などがあれば、より効果的だと考えています。
【委　員】：新しい参加者をどのように取り込んでいく予定ですか。
【団　体】：社協さんの事業を通じて学校の福祉教育に入らせていただく機会が増えています。そこで体験した子が「またやりたい」となった時に、私たちのスクールのチラシを渡すことで、継続的な参加に繋げています。体験会だけで終わらせ

ず、受け皿としてのスクールがあることを知ってもらうのが重要だと思っています。

【委　員】：運営の安定性についてお伺いします。現在、運営メンバーは何名くらいですか。

【団　体】：運営自体は私を含めた専門職のメンバーが中心ですが、最近は保護者の方々が非常に積極的に手伝ってくださるようになりました。車椅子の搬入や設営なども保護者の方が協力してくださるので、マンパワー面での不安は少なくなっています。

【委　員】：今後の資金計画はどうお考えですか。

【団　体】：現在は補助金がなくても運営できる体制にはなっています。ただ、活動の認知度を上げるための広報費などは不足しているため、今回の補助金を活用して備品を揃え、さらに活動を広めていきたいと考えています。こうした公的な場で認めていただくこと自体が、活動の信頼性にも繋がると考えています。

【委　員】：お時間となりましたので、質疑を終了いたします。